

検証保育・検証授業1 古謝栄子教諭（南城市立大里中学校）

去る1月13日(火)に後期教育研究員の検証保育・検証授業がスタートしました。

大里中学校で行われた、古謝栄子教諭による中学校英語の検証授業では、「帯活動」で日常的に書くことを行い、まとまりのある文を書かせる手立てを工夫した環境の中で、生徒の集中している姿と辞書を片手に書きたいことに取組む様子が印象的でした。

指導講師の大城賢（琉球大学教授）からは、学習指導要領の「書くこと」を踏まえた新しい試みの研究であり、「まとまりのある文（メッセージ性のある文）」を書かせるためには、段階的に教えていくことが必要であり、さらに自分のことを書かせることで書く意欲の高まりに結びついており、手立ての工夫が施されているとの指導助言がありました。検証授業研究会の中では、①授業の中での「書くこと」の時間の確保②「お正月の過ごし方」の書くテーマの検討③5文の課題設定の妥当性が課題としてあげられました。これから課題を踏まえ、検証のまとめ等に生かしていきます。

【研究テーマ】

自己表現力の基礎を育む学習指導の工夫  
～自分との関わりで段階的に書くことの指導を通して～

【検証授業に授業仮説】

- ① 自分との関わりで、ふだんの正月の過ごし方について伝えたい内容を中心とした英文の構成を考えることで、まとまりのある文を書くことができるであろう。
- ② 互いの英文を読み合い、アドバイスをし合うことにより、まとまりのある文を書くことができるであろう。



写真1 検証授業の様子

【検証授業研究会の会順】

- 1 校長あいさつ
- 2 授業者の反省
  - (1) これまでの検証についての概要の説明
  - (2) 今日の授業について
- 3 質疑応答、討議
  - (1) 検証授業（本時）における質疑
  - (2) 検証の視点にもとに討議
- 4 指導講師（大城賢教授）による指導助言
- 5 所長あいさつ



写真2 検証授業研究会の様子

検証授業を終えて（古謝栄子）

検証授業の中で、生徒には英文を書くことが多くなると話してあったものの、今思うと結構書かせたなあと思いました。帯活動の英文作りで、最初はつなぎ言葉(and)に続く英文が書けなかった生徒が書けるようになってきたり、chat with friends(友達とおしゃべりする)という教科書にはない表現を書いてあったり、文法的な指摘もすぐ次時には取り入れたり、生徒の良い変容として追加しておきたいと思えます。

本時は、一言でいうなら前時までの準備不足でした。そのため、じっくり書かせるだけの時間が確保できていなかったと思います。生徒がお互いの英文を読み合う際のコメントが、書き手にもっと書くことを要求している内容が目立ちました。ある程度の行をなさないとまとまりがあるかどうか判断できないという視点はもっているようでした。

ふだんの正月について書く課題は、特に書きたいと思わせるような課題ではなかったかもしれません。どうすればもっと身近な課題になったか考えていきたいです。大城賢教授、上原所長、羽根田主任指導主事、義仁指導主事、嶺井指導主事、ご助言ありがとうございました。